

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 全国障害者スポーツ大会等補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域スポーツ課 地域・パラスポーツ振興係 電話番号：058-272-1111(内2623)

E-mail：c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 33,423 千円 (前年度予算額： 33,423 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	33,423	0	0	0	0	0	0	0	33,423
要求額	33,423	0	0	0	0	0	0	0	33,423
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的に開催される全国障害者スポーツ大会へ本県選手団を派遣する経費に対し、補助を行う。

(2) 事業内容

- 全国大会及び北信越東海ブロック大会派遣費
「第23回全国障害者スポーツ大会 (かごしま大会)」及び「北信越・東海ブロック大会(団体競技のみ)」へ、本県選手団を派遣する。
- 大会出場選手強化費
大会出場が決定した選手に対して練習会等の支援を実施。
- 通年強化実施費
全国障害者スポーツ大会出場を目指す選手を対象に、練習会等の支援を実施。

(3) 県負担・補助率の考え方
県10/10

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	33,423	全国大会派遣費：12,470千円、団体競技ブロック大会派遣費、5,188千円、強化練習・合宿、種目決定会、会議費：11,984千円、需用費：3,781千円
合計	33,423	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画において、全国障害者スポーツ大会への継続派遣及び選手育成について記載。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	全国障害者スポーツ大会等補助金
補助事業者（団体）	（一社）岐阜県障害者スポーツ協会 （理由）同団体は、身体、知的、精神の3障がいを対象とした障がい者のスポーツ振興を図るために、障がい者団体及び関係機関が設立し、すべての手帳所持者が加入資格を有する会員数県下最大の障がい者福祉関係団体であり、本事業を推進しうる組織力、実務遂行能力を有する唯一の団体であるため。
補助事業の概要	（目的）県民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。 （内容）全国障害者スポーツ大会へ本県選手団を派遣する経費に対し、補助を行う
補助率・補助単価等	定額 定率・その他（例：人件費相当額） （内容） （理由）
補助効果	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国障害者スポーツ大会が中止となったが、年間を通じた選手の強化練習を補助することで、選手レベルの維持に貢献した。
終期の設定	終期 8 年度 （理由） 第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画に記載

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 「ぎふ清流大会」で高まった障がい者スポーツに対する機運を生かし、継続的な選手の派遣を行い、出場した選手が十分に力を発揮できるよう、選手の強化を行い、競技力の向上を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H30年度末)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	
					達成率	
①全国障害者スポーツ大会総メダル獲得数	59	-	52	52	52	-
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	20,698	4,602	6,122

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国障害者スポーツ大会が延期となったが、年間を通じた選手の強化練習を補助することで、選手レベルの維持に貢献した。
	指標① 目標：59 実績： ____ 達成率： ____ %
令和3年度	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国障害者スポーツ大会が延期となったが、年間を通じた選手の強化練習を補助することで、選手レベルの維持に貢献した。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	全国障害者スポーツ大会は、毎年開催されることから、大会への派遣は、県の補助金により、継続して実施していく必要がある。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	例年の団体競技出場数など「ぎふ清流大会」を契機とした選手強化の取組における成果が表れている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	出場選手数が前年の3倍以上となった「ぎふ清流大会」から、平年ベースの派遣に移行するため、選手派遣や強化のスリム化を図っている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 これまでの育成強化の取組を一過性に終わらせないように、当該年度の選手強化を継続的に実施する。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 2020東京パラリンピックの成果を受け、パラスポーツの裾野拡大のため、全国障害者スポーツ大会へ選手団を継続派遣していく必要がある。</p>
